

令和7年度

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 あったかほーむ愛あい	代表者	横山美智子	法人・ 事業所 の特徴	「一人ひとりの気持ちに寄り添い、その人が望む暮らしができるよう支援し一緒に地域で生きていく」を事業所の理念とし、地域住民とともに、安心して生活ができるよう地域の力を借りながら、共に生きる場を実現することを目的としている
事業所名	トムソーヤ	管理者	末永悦子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	4人	人	人	1人	人	人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	引き続き、報連相の漏れがないように、ミーティングやEメールを活用し情報共有の全員周知に努める。	利用者の情報、委員会での取り組み等の報連相はミーティングや連絡ツールを使用し全員への周知ができた	家族が事業所に対し気軽に意見や要望を伝えられる仕組みの必要性がある（Eの意見も含む）	自己評価の結果を職員間で共有し抽出された課題ごとに改善内容を明確にして取り組む
B. 事業所のしつらえ・環境	生産性向上委員を中心に、事業所の3M（ムリ、ムダ、ムラ）をなくした環境作りにつとめる	事業所内のムリ、ムラ、ムダをなくし危険性のない空間作り委員会を中心に環境作りを行うことができた。	外部からの特段の意見はなかった。現状を維持しつつ、今後も環境への配慮を継続していくこととする	利用者が安心して過ごせる環境となっているか確認、また働きやすい環境にするために気づいた点の見直しを行う
C. 事業所と地域のかかわり	にこにこカフェを継続して行く。C・D同様 各地域の高齢者の集まりに利用者と出向く機会を設ける。	にこにこカフェは2回開催。うち、1回は中学生の職業体験学習と一緒に開催。準備や利用者の方々と交流を行うことができた。	今年のカフェの実施状況について質問があり、実施状況について説明を行った。今後も開催に向けて検討していくこととする	地域との関りを継続し活動内容について職員間で共有する
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	にこにこカフェを継続して行く。C・D同様 各地域の高齢者の集まりに利用者と出向く機会を設ける。	地域の夏、秋祭り、一斉清掃等に協力することができた。気候を考慮し利用者の方との参加は控えることが多かった。	地域交流への参加について感謝の声もあった。参加者が固定化している傾向もあり今後は新たな参加者の確保も課題である	利用者の希望や生活歴に基づいた支援を行い、外出や関わり方を統一する
E. 運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議の中で事例の紹介を行い取り組みに意見を頂く。地域高齢者の情報収集を行う。	毎月事例を紹介することができ、多くのご意見、ご助言を頂くことができた。民生委員の方々からは地域の高齢者の関わり方の課題等聞くことができた	運営推進会議に、ご利用者家族の代表に参加してもらうことで一般論として質問しやすく意見を引き出せるのではないかと	運営推進会議の構成員に利用者家族を加え、意見交換を行い家族視点を取り入れた支援の見直しにつなげる
F. 事業所の防災・災害対策	ライフジャケットの着方訓練及び避難訓練の継続を行い、スタッフ全員が災害時に対応できる取り組みをつくる	毎週1回、利用者の方々に意識付けの為、ライフジャケットの着方訓練を行えた。地域では災害取り組み、防災用品や備蓄の紹介を行う交流を行った	外部からの特段の意見はなかった。今後も継続的な訓練を通じて災害時の安全確保に備えていく。	防災訓練の実施内容や対応手順を確認し課題を踏まえて見直しを行う 火災訓練2回/年・津波訓練3回/年